様式第５号（第３条関係）

第３回　学校運営協議会　　＜議事録＞

記録者氏名（所属）	津志田　くみ子	（登米市立登米中学校）

１　開会行事

（１）開会のあいさつ（　登米中　須藤明美　会長　）

（２）校長あいさつ　（　登米中　飯川弘芳　校長　）

（３）自己紹介

２　学校・地域課題に対する熟議

議題「登米市における生涯スポーツとこれからの部活動」

（１）趣旨説明

登米中学校の運動部の現状や地域の現状を共有し，今後の登米地区の生涯スポーツや部活動の在り方について考える場としたい。

（２）登米小学校における児童の現状と課題について　（登米小　佐藤主幹教諭）

・中学進学後の部活動に対する児童と保護者の意識調査結果より，運動が好き，興味のある児童は多く，外部でスポーツ活動を行っている児童もいる。

・肥満傾向の児童の割合が高く，養護教諭による指導や業間に運動量を確保する活動を行っている。

（３）登米中学校における部活動の現状と課題について　（登米中　榊田教諭）

・生徒数及び，運動部への所属人数が減少傾向にある。そのため，新人大会に出場できない部活動や他の部活動からサポートをもらって出場する部活動がある。登米市内には，本校以外にも団体種目の維持が難しい学校もある。

・運動部への所属率から運動能力や体格差が見られる学年もある。

（４）講話「子どもたちへのスポーツ活動の推進～地域の現状と課題に見る方向性～」

講師　登米市教育委員会生涯学習課課長補佐　髙橋　正晴　氏

・登米市の小，中学生は肥満傾向にある。

・外遊びが減り，家で過ごす時間が増えるなど生活環境の変化がある。

・登米市として，スポーツ活動に取り組む団体や環境がある。

・子どもの頃の運動遊びから生涯スポーツへの広げ，つなげていきたい。

・オリンピックやパラリンピックを通して，スポーツから受ける達成感やチャレンジすることの良さを伝える環境も必要である。

（５）「学校の働き方改革を踏まえたこれからの部活動」について　（登米中　飯川校長）

・持続可能な部活動と教師の負担軽減の両方を実現できる改革が必要とされ，改革の方向性や方策に

ついて提示され，令和５年度から全国展開が予定されている。

・地域部活動推進事業として，総合型地域スポーツクラブや大学・企業などの運営団体と学校との連携体制の構築を図り，生徒にとって望ましい持続可能な部活動の実現が目指されている。

（6）意見交換

「登米地区の現状ついて課題と改善点」「登米地区の地域スポーツについて」４グループに分かれてのグループ協議を行った。

Ａ：小学校から中学校に進学する際に，希望の部活動がない状況も考えられ，他地区の部活動で活動したいということも考えられる。そこには，保護者の考えも加味されている。大人も子供も合わせて町内会においてスポーツ大会などの活動が地域スポーツの向上につながるのではないか。

Ｂ：子供のスポーツ環境の背景には，少子化，親の経済的負担，親同士の関わりなどの問題があるのではないか。また，部活動に強制的に時間を取られることを嫌う子供も増えているのでないか。部員数の問題で試合に出られなければ，他の進学先を選択肢として考えることもある。個人競技があれば，入部数も増えるのはないか。

Ｃ：課題として，生徒数が少ない。その少人数の児童生徒の中で，将来スポーツ選手になる夢を持つ子の数も少なくなっている。小学校ではスポーツに興味があるのに，中学では文化部に入部する理由について，スポーツが楽しいものから厳しいものになるからではないか。「蔵っこ」とスポ少との関係を見直し連携していくことで，取り組みやすい環境づくりにつながるのではないか。

Ｄ：運動部に入らたがらない生徒・保護者の意識はどのようになっているか。スポ少からの継続や親の会の負担等が考えられ，また，親が運動部での達成感を味わったことがないのではないか。地域や親が運動するきっかけ作りや感動を味合わせたり，チャレンジさせたりする機会をつくることも必要ではないか。美術部の中の活動でもゲーム感覚でスポーツ体験させることで肥満対策につながるのではないか。

３　その他

・登米中学校前の道路工事により，校門（スレート）を移設する。

４　閉会行事

（1）次回の学校運営協議会の開催について

（2）閉会のあいさつ　（　登米小　佐竹孝喜　会長　）

(以上)